

平成 19 年度 大学院・専攻科入学式告辞

専攻科，大学院修士課程，博士課程への入学おめでとう．332名の大学院生等を迎えることになりました．この中には，4か国からの外国人留学生25名と社会人82名が含まれています．香川大学は君たちを心から歓迎します．

ここにいる諸君は，学部の学生諸君の集団に比べれば，はるかに多様性に富んだ集団です．留学生の国籍ひとつ取ってもそうですが，院生の年齢構成でも大きな幅があります．その結果，経験や実績，ひいては知識の量と幅，考え方，感じ方においても大きな変異があるはずですが，生物の進化の過程を考えれば，豊かな多様性はその集団の将来の発展性を約束するものであります．君たちは，自分自身とは異なる人たちとの交流や議論，場合によっては論争を通して自分自身の知識や思考の幅をひろげ，人格を高めていただきたいと思えます．

さて，君たちはこれまでも最先端の研究に接してきたことと思えます．しかし，これからは君たち自身の力で最先端の研究に取り組まなければなりません．その時にぜひ心がけてもらいたいことがあります．それは，人文社会科学を専攻する人にとっては研究の場である現場を大切にすることであり，自然科学を専攻する人にとっては観察を大切にしてもらいたいと思えます．

近年の科学技術の進展は科学研究のあり方にも大きな影響を与えています．例えば，科学技術の進展は生命活動に関わる新しい計測技術を生み出し，今までには知りえなかった生命現象を我われに教えてくれます．計測数値などをコンピュータ

ーに入力すれば新しい知見がたちどころに出てくることもあり、近年の自然科学の進歩は計測技術とコンピューター技術に支えられていると言っても過言ではありません。その結果、計測結果に至るまでに本来研究者が注意深く、精神を集中して行なわなければならない現象の観察を軽視する傾向さえ見られます。

今年は、大学構内の桜が君たちの入学を心待ちにしていました。今日は、満開の桜が君たちを歓迎しています。気象庁による当初の桜の開花予想は3月17日でしたが、その後3月26日に修正されました。その原因はコンピューターへ入力するデータのミスだったそうです。この度の桜の開花日予想の修正騒ぎは、これから科学を志すものに大切なことを教えているように思います。それは、観察の大切さであり、現場を見ることの重要さです。桜の木のある現場に毎日出向き、桜を毎日観察している人なら、当初の開花予想日を聞いたときには不思議な気持になったはずです。たぶん、そんなはずはないと思ったことでしょう。

最近の生命科学の研究では、生命体の様々な動きや現象を観察することよりも計測結果であるデータのみを重視する傾向が見受けられます。科学研究を進めるに当たってデータはたいへん重要ですが、データは生命体の動きや現象の一部を表現しているに過ぎないことを忘れてはなりません。科学者にとってもっとも大切にしなければならないのは観察です。これから科学を学ぼうとしている君たちに科学することの楽しさと同時に、観察の大切さを学んでいただきたいと思います。

地球温暖化や農地の砂漠化に代表される地球環境の劣化をはじめ、人口増加、貧困層の拡大などの我われの生存や存在に係わる課題に対する解決策を我われ自身の将来のために提示しなければなりません。一方では、新しい知識・情報・技術の重要性が強調され、21世紀は「知識基盤社会」と言われています。特

に、我が国にとっては人々の知的活動・創造力が最大の資源であります。したがって、地球規模的課題に新しい視点を持って挑戦し、君たち自身が日本における知的活動・創造力の担い手になることをめざしてもらいたいと思います。

君たちが香川大学での大学院生活を通じて、豊かな教養と高度な専門知識を備えた研究者や技術者に育ってくれることを期待しています。

平成 19 年 4 月 5 日

香川大学長 一井 眞比古